冬期練成ゼミ　プレテスト

小学6年　国語

なまえ

実施日　／

正答率　／

問題番号に「✔」の印がついた問題は解かなくてよいです。

やらない問題 ✔

1 **【物語】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

遠く、a いなかから、出ていらした、おじいさんがめずらしいので、勇吉（ゆうきち）は、そのそばをはなれませんでした。①おじいさんの着物には、北の国の生活が、しみこんでいるように感じられました。それは畑の枯（か）れ草をぬくもらし、また町へつづく、さびしい道を照らした、太陽のにおいであると思うと、かぎりなくなつかしかったのです。

「こちらは、いつも、こんなにいいお天気なのか」と、おじいさんは、聞かれました。

「はい、このごろは、b 毎日こんなです」と、おかあさんが、答えました。

「あたたかなところで、くらす人は、うらやましい」

おじいさんは、庭のかなたへ、はてしなくひろがる空を見ました。風のない、おだやかな日で、空がむらさきばんでいました。

「おかあさん、さっき、金魚売りがきた」

「そうかい、戦争中は、金魚売りもこなかったね」

「故郷（くに）は、まだこんなわけにはいかない」と、おじいさんは、なにか考えていられました。

〈小川未明「かたい大きな手」より〉

(1) ——線a「いなか」を、別の言い方で表現した二字のことばを、本文中から書きぬいて答えなさい。

(2) ——線b「毎日こんなです」を、次のように言いかえたとき、□に入る最もふさわしいことばを、本文中から五字で書きぬいて答えなさい。

〈毎日こんなに□です。〉

(3) ——線①「おじいさんの着物には、北の国の生活が、しみこんでいるように感じられました」とありますが、勇吉は、おじいさんの着物にしみこんでいる「北の国の生活」とは何だと思いましたか。本文中から六字で書きぬいて答えなさい。

(4) 本文中の会話のうち、勇吉の発言と考えられるものを一つさがし、その最初と最後の五字（かぎかっこも字数に数えます）を書きぬいて答えなさい。

「□～□」

(5) 本文の内容に合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　勇吉は、初めて会うおじいさんのことをめずらしがり、ずっと

SAMPLE